

## 大阪地域の HIV 検査機関における MSM の受検動向

研究協力者：岳中美江（特定非営利活動法人 CHARM／エイズ予防財団）  
市川誠一（名古屋市立大学）

### 研究要旨

検査機関と共同で実施している調査を継続し、2007 年の質問紙協力者のうち、同性間の性的接触を感染不安要因として受検した男性 429 人について検討した。受検者中の MSM 受検者の割合は一定していたが、HIV 陽性率は前年までよりも低くなっていた。MSM 受検者の基本属性、情報源、受検までの期間、受検や相談経験、受検動機、感染リスク認識、性行動などについて集計した結果を報告する。

### A. 研究目的

MSM への予防介入による効果を受検行動の側面から評価するため、検査機関（大阪・土曜日常設 HIV 検査事業）と共同で調査を実施した。大阪・土曜日常設 HIV 検査は、特定非営利活動法人 CHARM が大阪府・大阪市から委託を受け、毎週土曜日午後には大阪市内で無料匿名 HIV/性感染症検査を実施しているものである。この検査機関を本研究の対象に選んだ理由は、MASH 大阪が活動している地域に位置していること、MASH 大阪がこの検査機関を広報・紹介していること、MASH 大阪が実施した臨時 HIV 抗体検査の終了後まもなく検査事業を開始(2002 年 10 月)したこと、検査相談の体制（質的内容）を充実する工夫が見られること、受検者に対して質問紙調査を実施していることなどである。MSM の一定の利用があるこの検査機関における受検者動向の把握により、MASH 大阪の啓発対象層の HIV/性感染症の感染状況や予防行動の一部が観察できるものと思われる。本稿では 2007 年の MSM 受検者動向を報告する。

### B. 研究方法

無記名自記式質問紙を受検者全員に配布し、

採血日行程終了時に任意に記入してもらった。2007 年 1 月～12 月の受検者総数 2633 人のうち質問紙回答に協力が得られたのは 2270 人（有効回答率 86.2%）であった。質問紙協力者のうち、同性間の性的接触を感染不安要因として受検した男性を MSM として集計した。

### C. 研究結果

質問紙調査の協力者 2270 人のうち、同性間の性的接触を感染不安要因として受検した男性（以下 MSM）は 429 人であった。

HIV 検査結果陽性と判定された 18 人のうち、結果を受け取ったのは 16 人。そのうち 15 人が MSM で、質問紙調査の回答率から推定した MSM 受検者中の陽性者割合は 3.0%であった（図 1）。陽性結果を受け取った 16 人全員に HIV 診療拠点病院を紹介しており、これまでに 15 件の受診回答書の返信があった。また、梅毒検査を受け、かつアンケート回答が得られた MSM425 人のうち、TPHA 陽性結果と判定されたのは 11.1%であった。クラミジア抗体検査を受け、かつアンケート回答が得られた MSM426 人のうち、IgG 陽性結果と判定されたのは 9.6%であった（図 2）。

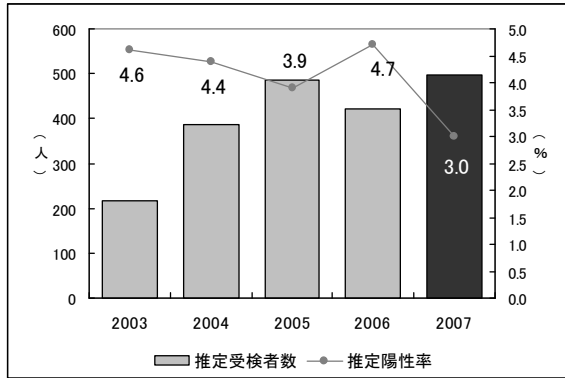


図1 推定MSM受検者数と推定陽性率

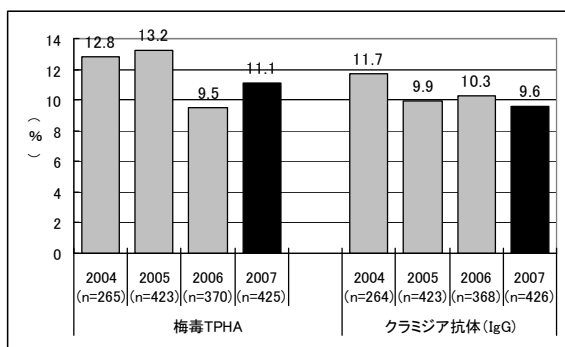


図2 梅毒とクラミジア陽性率

MSM 受検者の年齢分布、居住地を表1に示した。平均年齢は33歳であった。年齢分布をみると、30歳前半が20%で最多、次いで20歳前半18%、20歳後半17%であるが、2006年よりも40歳代(14%)と50歳代(5%)の割合が増加した。居住地をみると、70%は大阪、次いで兵庫であった。近畿全域からの利用があるが、大阪の割合が増加傾向にある。

この検査機関を知った情報源(複数回答)として(表2)、インターネット利用が52%と最も高い割合である。インターネットに次いで友人・恋人24%、ポスター・パンフレット・広報誌16%であり、2006年までと同様の傾向である。また、テレビ・ラジオ等は7.2%で2006年(4%)より多い割合になっていた。

感染を心配する行為から受検までの期間は(表2)、60%が3ヶ月未満、34%が1年以内であり、MSM 受検者の多くは不安な行為があったから短期間に受検している傾向がある。

HIV 検査受検率は(表2)、これまで(生涯)74%、および過去1年間44%であり、2006年と同様の割合であった。

受検動機については(表2)、「自分にも感染の可能性がある」が77%で最も高率であり2006年(69%)より高くなっていった。次いで「定期的に受けている」「情報に触れ自分のことも心配」であり、2006年と同様であった。

自身のHIV感染可能性について、MSM 受検者の36%が「可能性があると思う」、48%が「少し可能性があると思う」としており、2006年と同じ傾向であった。

HIV 関連の相談をした経験について(表2)74%は経験がなかったが、一方で22%は検査時に相談した経験があった。

性行動についてみると(表3)、MSM 受検者の過去6ヶ月の性交経験率は89%で、その相手(複数回答)は、恋人など特定のパートナー46%、知人・友人32%、バーやクラブで知り合った相手20%、ネット出会い系で知り合った相手20%、携帯出会い系で知り合った相手12%であった。どれも2006年より低い割合になっていた。また、過去6ヶ月間のセックスにおけるコンドーム常用率は、オーラルセックスでは6%(2006年10%)、アナルセックスでは45%(2006年51%)であった。

生涯受検経験別(受検経験者と初回受検者)に過去6ヶ月間のアナルセックスにおけるコンドーム使用をみると(図3)、受検経験者では「毎回使った」のは46%で、初回受検者(43%)より割合が若干高かったが、2006年(受検経験者の55%、初回受検者の38%)ほど両群の違いはなかった。

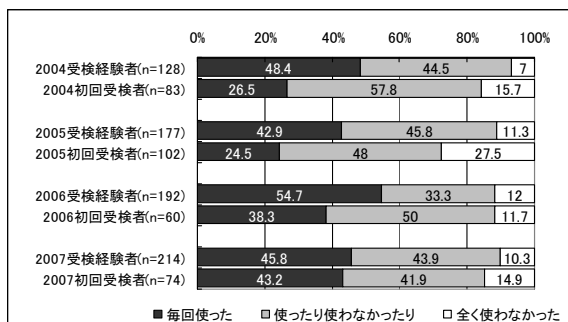


図3 受検経験別コンドーム使用  
(過去6ヶ月間のアナルセックス)

HIV 検査結果別に受検経験をみると、HIV 陽性結果だった人の60%、陰性結果だった人の74%は生涯受検経験があり、2006年と同じ割合であった(図4)。なお、陽性結果だった人の27%、陰性結果だった人の44%は過去1年間の受検経験があり、陽性結果だった人では2006年(39%)よりも低かった(図5)。

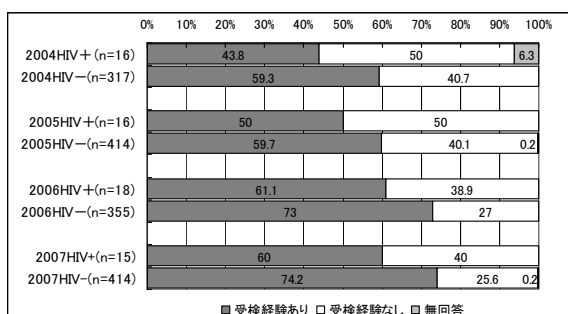


図4 HIV検査結果別の生涯受検経験

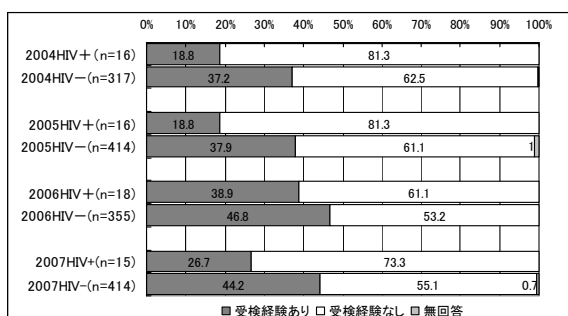


図5 HIV検査結果別の過去1年間受検経験

また、生涯受検経験別にHIV陽性割合をみると(図6)、初回受検者の5.4%、受検経験者の2.8%であった。例年初回受検者の陽性割合が受検経験者より若干高い傾向は変わらず、同様の割合で推移している。

ず、同様の割合で推移している。

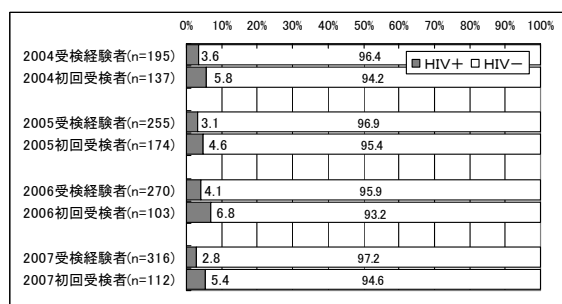


図6 生涯受検経験別のHIV陽性割合

#### D. 考察

質問紙調査の協力者全体のうちMSM受検者の実数は2006年よりも多かったが、割合は19%で同様であった。MSM推定HIV陽性率は2006年より低かった。年齢分布は、40歳以上の割合が2006年よりも多くなり、高齢層の利用が増えている傾向があった。また、検査の情報源としてテレビやラジオなどのメディアが、受検動機として「自分にも感染の可能性がある」が、2006年よりも高い割合であった。これまでと同様に、MSM受検者は心配なことがあってから比較的早い時期または定期的に、自身の感染リスクを意識して具体的な動機をもとに検査相談を利用している傾向にあると考えられる。しかし、MSM受検者中の推定陽性割合はこれまでで一番低くなっており、今後の傾向を把握していく必要がある。

また、過去6か月間のアナルセックスにおけるコンドーム常用率は2006年の51%よりも低かったものの、2005年の36%よりは高率になっており、今後も傾向を把握していく必要がある。なお、HIV陽性結果であった人の生涯受検経験率は比較的高いが、受検経験者のうちの陽性割合が増加しているわけではないことなどが示す意味をさらに検討する必要があると考える。

#### E. 結語

MSM受検者の動向を把握するため大阪・土曜日常設HIV検査事業において調査を実施し

た。MSM 受検者の陽性割合や受検・予防行動の一部が明らかになり、大阪における MSM を対象にした予防啓発活動が MSM の受検に関する行動に影響を及ぼしている可能性が示された。

2008 年 8 月からは堂山から難波に移転したため、受検者層の変化などについて把握していく必要がある。

## **F. 発表論文等**

(学会発表)

岳中美江、榎本てる子、岡部正子、岡本学、土居加寿子、松浦基夫、山中京子、藤山佳秀、市川誠一：大阪・土曜日常設 HIV 検査事業における受検者の動向（2007），第 22 回日本エイズ学会学術集会・総会，2008 年，大阪。

表1 大阪土曜日常設検査におけるMSM受検者に関する概要(年別)

	2004(n=333)		2005(n=430)		2006(n=373)		2007(n=429)	
	n	%	n	%	n	%	n	%
年齢階級								
15-19歳	18	5.4	28	6.5	13	3.5	15	3.5
20-24歳	51	15.3	83	19.3	62	16.6	78	18.2
25-29歳	87	26.1	83	19.3	82	22.0	73	17.0
30-34歳	92	27.6	80	18.6	69	18.5	84	19.6
35-39歳	42	12.6	57	13.3	60	16.1	66	15.4
40-44歳	10	3.0	25	5.8	31	8.3	43	10.0
45-49歳	5	1.5	19	4.4	13	3.5	19	4.4
50-54歳	4	1.2	12	2.8	3	0.8	13	3.0
55-59歳	4	1.2	10	2.3	9	2.4	10	2.3
60歳以上	0	0.0	2	0.5	6	1.6	6	1.4
無回答	20	6.0	31	7.2	25	6.7	22	5.1
居住地								
大阪	216	64.9	281	65.3	254	68.1	300	69.9
兵庫	67	20.1	81	18.8	63	16.9	58	13.5
京都	18	5.4	25	5.8	27	7.2	32	7.5
奈良	15	4.5	13	3.0	8	2.1	14	3.3
滋賀	4	1.2	15	3.5	10	2.7	6	1.4
和歌山	2	0.6	2	0.5	2	0.5	1	0.2
その他	10	3.0	10	2.3	9	2.4	15	3.5
無回答	1	0.3	3	0.7	0	0.0	3	0.7

・MSMは感染不安行為が同性間の性的接触と回答した男性

表2 大阪土曜日常設検査におけるMSM受検者に関する概要(年別)

	2004(n=333)		2005(n=430)		2006(n=373)		2007(n=429)	
	n	%	n	%	n	%	n	%
感染不安行為経験場所								
日本国内	309	92.8	409	95.1	349	93.6	407	94.9
国外	2	0.6	3	0.7	3	0.8	2	0.5
国内と国外	21	6.3	18	4.2	19	5.1	18	4.2
わからない	1	0.3	0	0.0	1	0.3	0	0.0
無回答	0	0.0	0	0.0	1	0.3	2	0.5
感染不安行為からの期間								
90日未満	129	38.7	231	53.7	206	55.2	259	60.4
1年以内	165	49.5	160	37.2	141	37.8	146	34.0
1年以上前	33	9.9	34	7.9	22	5.9	17	4.0
無回答	6	1.8	5	1.2	4	1.1	7	1.6
土曜検査を知った情報源(複数回答)								
インターネット	175	52.6	235	54.7	198	53.1	224	52.2
友人・恋人	79	23.7	109	25.3	85	22.8	101	23.5
テレビ・ラジオ・新聞・雑誌	19	5.7	18	4.2	15	4.0	31	7.2
ポスター・パンフ・広報誌	52	15.6	73	17.0	62	16.6	67	15.6
保健所・行政	21	6.3	14	3.3	19	5.1	16	3.7
病院	2	0.7	3	0.7	4	1.1	0	0.0
学校・職場	5	1.5	5	1.2	4	1.1	5	1.2
飲食店・飲み屋	9	2.7	15	3.5	8	2.1	5	1.2
受検動機(複数回答)								
自分にも感染の可能性*	194	68.1	297	69.1	259	69.4	329	76.7
体調に変化あり感染の不安	56	16.8	70	16.3	47	12.6	55	12.8
情報に触れ自分のことも心配*	50	17.5	81	18.8	67	18.0	72	16.8
パートナーの感染がわかった*	14	4.9	26	6.0	17	4.6	20	4.7
新しい恋人できた	38	11.4	52	12.1	49	13.1	62	14.5
恋人と一緒に	30	9.0	40	9.3	28	7.5	40	9.3
性感染症にかかった*	15	5.3	20	4.7	7	1.9	12	2.8
ただ単に知りたい	47	14.1	51	11.9	55	14.7	42	9.8
定期的に受けている	46	13.8	74	17.2	75	20.1	89	20.7
過去のHIV検査受検経験								
これまで(生涯)	195	58.6	255	59.3	270	72.4	316	73.7
過去1年間	121	36.3	160	37.2	173	46.4	187	43.6
過去1年間の受検場所(複数回答)								
病院	15	12.4	21	13.1	20	11.6	24	12.8
保健所	44	36.4	38	23.8	32	18.5	36	19.3
市内夜間検査	18	14.9	11	6.9	7	4.0	8	4.3
当土曜検査*	48	44.9	88	55.0	117	67.6	118	63.1
その他	3	2.5	14	8.8	8	4.6	16	8.6
HIV関連相談経験(複数回答)								
経験なし	242	72.7	330	76.7	268	71.8	317	73.9
電話相談した	12	3.6	11	2.6	7	1.9	15	3.5
保健所に相談した	8	2.4	8	1.9	6	1.6	7	1.6
検査時に相談した	75	22.5	80	18.6	94	25.2	94	21.9
自身のHIV感染の可能性*								
まったくないと思う	1	0.4	7	1.6	5	1.3	2	0.5
あまりないと思う	40	14.0	40	9.3	55	14.7	53	12.4
少し可能性があると思う	134	47.0	214	49.8	171	45.8	206	48.0
可能性があると思う	107	37.5	158	36.7	135	36.2	154	35.9
無回答	3	1.1	11	2.6	7	1.9	14	3.3

\*MSMは感染不安行為が同性間の性的接触と回答した男性

\*\*のついた項目:2004年については4月~12月の回答のみ(n=285)

表3 大阪土曜日常設検査におけるMSM受検者に関する概要(年別)  
～過去6ヶ月間の性行動について

	2004(n=333)		2005(n=430)		2006(n=373)		2007(n=429)			
	n	%	n	%	n	%	n	%		
過去6ヶ月の性経験	ある		305	91.6	374	87.0	327	87.7	383	89.3
	(n=305)		(n=374)		(n=327)		(n=383)			
	n	%	n	%	n	%	n	%		
過去6ヶ月の性交相手(複数回答)										
恋人・特定のパートナー	169	55.4	202	54.0	163	49.8	196	45.7		
知人・友人とその場限りで	102	38.9	133	35.6	120	36.7	135	31.5		
バー・クラブで会ったその場限りの人	89	29.2	80	21.4	94	28.7	84	19.6		
ネット出会い系サイトで会ったその場限りの人	81	26.6	104	27.8	93	28.4	84	19.6		
携帯出会い系サイトで会ったその場限りの人	47	15.4	56	15.0	47	14.4	53	12.4		
風俗店等の従業員	23	7.5	28	7.5	21	6.4	23	5.4		
風俗店等の客	13	5.0	24	6.4	10	3.1	21	4.9		
その他	7	2.3	6	1.6	12	3.7	13	3.0		
過去6ヶ月のコンドーム使用(オーラルセックス)	(n=262)									
毎回使った	12	5.2	27	8.1	29	9.9	22	6.4		
使ったり使わなかったり	62	26.7	75	22.5	70	23.8	97	28.1		
全く使わなかった	158	68.1	231	69.4	195	66.3	226	65.5		
行為をしていない	13	—	9	—	17	—	16	—		
無回答	17	—	32	—	16	—	22	—		
過去6ヶ月のコンドーム使用(アナルセックス)*	(n=262)									
毎回使った	84	39.6	102	36.4	128	50.8	131	45.3		
使ったり使わなかったり	106	50.0	130	46.4	94	37.3	125	43.3		
全く使わなかった	22	10.4	48	17.1	30	11.9	33	11.4		
行為をしていない	43	—	70	—	58	—	74	—		
無回答	7	—	24	—	17	—	20	—		
過去6ヶ月のコンドーム使用(陰性交)*	(n=262)									
毎回使った	26	50.0	31	40.3	34	51.5	24	35.3		
使ったり使わなかったり	21	40.4	27	35.1	23	34.8	24	35.3		
全く使わなかった	5	9.6	19	24.7	9	13.6	20	29.4		
行為をしていない	137	—	189	—	163	—	207	—		
無回答	73	—	108	—	98	—	108	—		

・MSMは感染不安行為が同性間の性的接触と回答した男性

・コンドーム使用の%は、「行為をしていない」「無回答」を省いた値を母数とした

・\*\*のついた項目:2004年については4月～12月の回答のみ